

(注)各割合は、四捨五入してあるため合計が100%にならない場合がある。

県章



昭和38年8月23日制定

新潟の「新」を中心に、「ガタ」を円形に模様化しました。融和と希望を象徴し、県勢の円滑な発展を託したものです。

県シンボルマーク



平成4年3月27日制定

「新日本海フロント・新潟県」のイメージをデザインし、新潟県の美しい文化、情報が世界に広がっていく国際性、積極性を表現したものです。青い円は、新しい時代の環日本海であり、新潟県の自然、うるおい、そして無限の可能性を表しています。白いウェーブは、新潟県の象徴であり、その限りない発展と独自性を表現しています。

沿革

明治4年、廃藩置県によって、越後と佐渡の地に新潟・柏崎・相川の3県が置かれました。その後、明治6年に柏崎県は新潟県に合併され、さらに明治9年には相川県が新潟県に合併されて、ほぼ現在の新潟県(東蒲原郡は明治19年に福島県から編入)の姿になりました。

本県の市町村数の推移をみると、明治22年、市制・町村制の施行当時は1市46町769村でしたが、昭和28年の町村合併促進法の施行による昭和の大合併や平成11年以降の平成の大合併により市町村合併が進み、令和8年4月現在では、20市6町4村の計30市町村となっています。

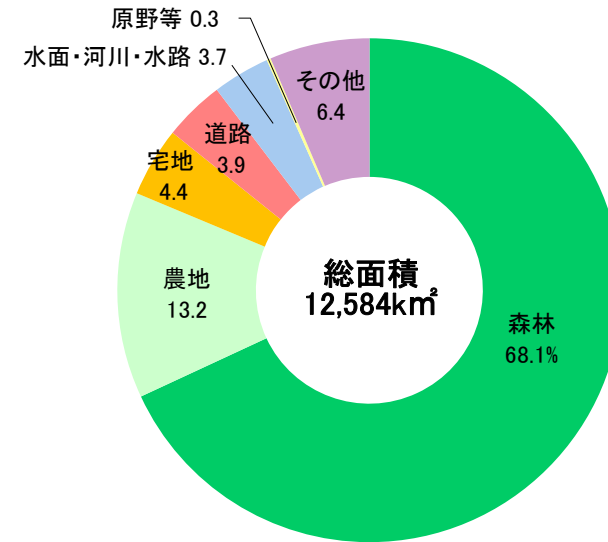
立県150年余、広大な県土と県民の不屈の努力により、着実な発展を遂げてきました。昭和57年の上越新幹線開業をはじめ北陸新幹線の開業、関越道・北陸道・磐越道・上信越道・日東道の5高速道路の開通など、高速交通体系の整備が進められています。また、平成8年に新潟空港の滑走路が2,500mに延長、さらに平成23年には新潟港・直江津港の2港が日本海側拠点港に選定され、国内外との交流を一層深めています。

地勢

本県は、日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、東側に連なる朝日山地、飯豊山地、越後山脈並びに西側に発達する西頸城山地及び白馬山地の山々に囲まれています。また、これらの山岳に源を発する信濃川、阿賀野川の流域に日本海沿岸随一の広大な越後平野が広がっています。

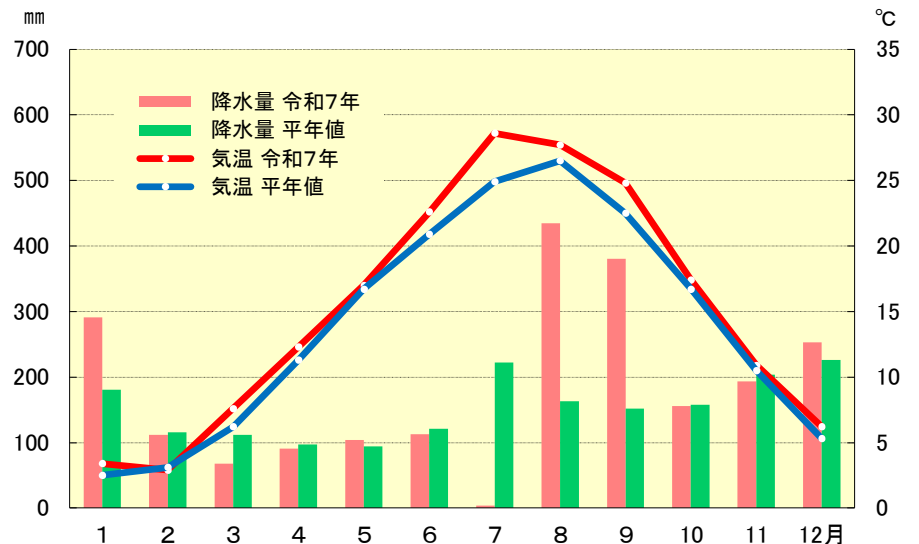
土地・気象

◆土地利用の様子(令和6年)



資料：県用地・土地利用課「土地利用現況把握調査」

◆気温と降水量(新潟気象台)(令和7年と平年値)



(注)平年値は、平成3年から令和2年の各月平均値。

資料：気象庁「過去の気象データ」